

宮城・竹ノ内遺跡

- 1 所在地 宮城県仙台市宮城野区蒲生字竹ノ内
- 2 調査期間 二〇〇三年(平15) 八月～一〇月
- 3 発掘機関 宮城県教育委員会
- 4 調査担当者 村田晃一
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 平安時代、江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



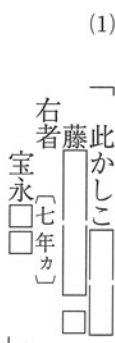
(仙台・塩竈)

竹ノ内遺跡は仙台平野の北東部にあり、標高二mの浜堤に立地する。遺跡の南〇・七kmを七北田川が東へ流れ、約二kmで河口に至る。遺跡は東西に細長く、規模は最も広い部分で南北八〇m東西一九〇mあり、面積は約一一六〇〇㎡ある。発掘調査の結果、平安時代の溝一条と江戸時代の屋敷、及びそれより新しい暗渠配水施設を伴う池などを検出した。このうち、近世

より新しい遺構は確認にとどめたため、具体的な内容は不明である。屋敷は幅三mの溝で方形に区画されており、溝は二時期の変遷が認められた。新しい屋敷の規模は、東西五〇m南北三五mと考えられ、古い屋敷の規模も同程度とみられる。溝からは、多くの陶磁器類とともに木製品や金属製品が出土している。木簡は、古い屋敷の南辺を画する溝から出土した。

池は、南北五m東西七mの歪んだ楕円形をしている。暗渠は、池の西端に取り付いており、西へ二m延びたのち、南へ折れる。掘形は幅が二〇cmあり、その内部に節を抜いた径一〇cmの竹筒が埋め込まれていた。掘形が直角に折れる部分は、内部をし字形に削り抜かれた木製の箱を据え、その穴に竹筒を差し込んで連結していた。池は、遺跡内にあったとされる冷徳寺に関わる遺構とみられる。なお、周辺の表土から、河原石を利用した墓石が二点出土した。

8 木簡の釈文・内容



306×(156)×41 081

直径二〇cm長さ三〇cmほどの丸太の外縁付近を縦に割って用いている。剖面は平坦に削られ、そこに文字が記されている。裏面は樹皮を剥いただけである。



文書には、場所を示す語句がみられ、末尾に年号が記されている。宝永七年は一七二〇年にあたる。木簡の形状や屋敷の区画溝から出土したことを考えると、野外で使われた土地などに関する表示かと思われる。

(1) 7 村田晃一、8 吉野 武

宮城・市川橋遺跡 いちかわばし

- 1 所在地 宮城県多賀城市市川字鴻ノ池
- 2 調査期間 第三七次調査 二〇〇三年(平15)六月～七月
- 3 発掘機関 多賀城市埋蔵文化財調査センター
- 4 調査担当者 武田健市
- 5 遺跡の種類 地方都市跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代、平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(仙 台)

市川橋遺跡は、特別史跡多賀城跡の西面から南面一帯にかけて広がる遺跡である。第三七次調査は、多賀城跡南面に位置する城南地区の個人住宅建築に伴って実施したものであり、城外の幹線道路である南北大路とそれを分断する古代の河川跡付近に位置している。発見した遺構には、南北大路SX三〇七〇と東西方向の河川SX三〇六一がある。南北大路は幅二四m段階の